

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/6)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	サトウ トモヒサ 佐藤 知久
学歴	平成 5年 3月 京都大学文学部哲学科哲学専攻卒業 平成 8年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻 修士課程修了(人間・環境学修士、M. Hum. & Env.) 平成14年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻博士後期課程研究指導認定・単位取得退学 平成14年 4月 京都大学総合人間学部研修員「平15.3まで」				
学位	平成16年 3月 人間・環境学博士(京都大学人博第249号)				
専門分野	文化人類学				
専門資格					
所属学会	日本文化人類学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 初年次演習、総合社会学基礎演習、総合社会学演習、都市文化論、アメリカ地域研究、文化コーディネーター実践演習、現代社会研究演習、卒業研究演習、卒業論文				
論文指導	論文指導担当[主査](卒論:2名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	都市文化論	講義・演習・実習・実験	春・秋	約40名	
	授業の概要: 現代都市がいまあるような形へと形成されてきた背景を理解するとともに、現代都市の現在の社会的・文化的特徴を理解することを目的とする。				
	教育活動の振り返り 1 教育活動の成果: 個人化がすすむ現代の都市における文化について、メディア実践の事例などもふくめて講じることができた。 今後の課題: グローバル都市や発展途上国の都市だけでなく、日本の地方都市における文化について、より講じる必要がある。				
科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数		
アメリカ地域研究	講義・演習・実習・実験	春・秋	約40名		
授業の概要: グローバル資本主義の中心的拠点のひとつとしてのアメリカ社会の歴史と、その社会と文化の現在における特徴について理解することを目的とする。					
教育活動の振り返り 2 教育活動の成果: 学生にとって親しみのあるアメリカ社会について、「多文化社会」「豊かさのなかの貧しさ」といったトピックを中心に、音声資料・映像資料などを用いて講じることができた。 今後の課題: アメリカ文化と日本文化のあいだには密接な関連があるが、この点についてより深く講じる必要がある。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/6)

<p>F D 教 育 実 績 ・ 活 動</p>	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 平成27年 2月 福島県南相馬市にあった映画館についての映画『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』 上映会を、学内(総合社会学演習 関連)および学外(本学人間学研究所主催) で行った。</p>
<p>H26年度 研究課題</p>	<p>1. 震災アーカイブとメディア実践に関する研究 2. アートと社会運動に関する研究 3. 宇宙人類学</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<p>1. 震災アーカイブとメディア実践については、せんだいメディアテークと共同で行っている「3 がつ11にちをわすれないためにセンター」についての調査を続けた。</p> <p>2. アートと社会運動に関しては、映画監督の藤井光氏と研究会およびトークセッションを行っ た。</p> <p>3. 宇宙人類学に関しては、JAXAと共同で行っている「オーラルヒストリープロジェクト」につ いての調査を継続するとともに、論文執筆および学会発表を行った。 後述:(論文)(学会報 告、学会活動)</p> <p>なお上記すべての調査研究活動についての理論的考察として、共編著書に論文をまとめたほ か、文学者・哲学者との対話を行った。(出版は次年度)</p>
<p>平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. "Life in extraterrestrial space: An anthropological consideration on astronauts' everyday experiences," JAXA Research and Development Memorandum (JAXA-RM-14-012E), pp. 63-69, Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA). (単著、平成27年3月)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会報告等:</p> <p>1. "Life in extraterrestrial space: an anthropological consideration on astronauts' everyday experiences," 15 May, 2014, IUAES Inter-Congress 2014, Makuhari Messe, Chiba City. (単独)</p> <p>学会活動:</p> <p>1. 「宇宙人類学研究会」(代表世話人: 岡田浩樹 [神戸大学])日本文化人類学会課題研懇談会・ 登録メンバー「平24.4より」</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 菅原和孝×池澤夏樹 公開対談「認識は旅をする:からみあう 人類学的思考 と 文学的想 像力」、日本文化人類学会近畿地区研究懇談会、企画・司会担当、平成26年9月、京都大学 芝蘭会館 稲盛ホール</p> <p>2. 映画『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』公開上映会+トークセッション 藤井光(映画監督)・ 佐藤知久、平成27年2月、京都文教大学人間学研究所主催、キャンパスプラザ京都</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年 5月 せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」調査 (於: 仙台市)</p> <p>平成26年 6月 1. せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」調査 (於: 仙台市) 2. JAXA「オーラルヒストリープロジェクト」調査(於: 東京都千代田区)</p> <p>平成26年 7月 JAXA「オーラルヒストリープロジェクト」調査(於: 東京都千代田区)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/6)

<p>平成二十六 (2014) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(調査活動 つづき)</p> <p>平成26年 9月 せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」調査 (於：仙台市)</p> <p>平成26年10月 JAXA「オーラルヒストリープロジェクト」調査 (於：東京都千代田区)</p> <p>平成26年12月 JAXA「オーラルヒストリープロジェクト」調査 (於：東京都千代田区)</p> <p>平成27年 1月 せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」調査 (於：仙台市)</p> <p>平成27年 2月 JAXA「オーラルヒストリープロジェクト」調査 (於：東京都千代田区)</p> <p>平成27年 3月 せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」調査 (於：仙台市)</p> <hr/> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成25年度-平成26年度</p> <p>科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「宇宙開発に関する文化人類学的アプローチの検討」(研究課題番号：90299058、研究代表者：神戸大学大学院・国際文化研究科・教授 岡田浩樹)研究分担者</p> <hr/> <p>(学内活動)</p> <p>自己点検・評価 教育研究専門委員会委員、教務委員会委員、人間学研究所員、文化コーディネーター委員、総合社会学部コース運営会議メンバー</p>
<p>平成二十六 (2014) 年度の社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都市住宅審議会委員「平26.9より」 <p>(NPO 法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイタル伏見、理事「平22.4より」 ・ Social Kitchen Working Group 震災/原発、メンバー「平 23.5 より」 <p>(その他)</p> <p>平成26年 4月 秘密保護法勉強会 秘密のヒミツvol.1「法律のヒミツ」運営担当、講師：小笠原伸児(京都弁護士会) 於：Social Kitchen</p> <p>平成26年 6月 1. 秘密保護法勉強会 秘密のヒミツvol.2「取材とヒミツ」運営担当、講師：岡本晃明(ジャーナリスト・地方紙記者) 於：Social Kitchen</p> <p>2. 秘密保護法勉強会vol.3+ ワークショップ「パブコメとヒミツ」運営担当、講師：新川達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授) 於：Social Kitchen</p>
<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「身体から考える」、共著、平成22年10月、京都大学人文科学研究所『人類学の誘惑 京都大学人文科学研究所社会人類学部門の五〇年』(pp.70-73) 2. 「社会運動と時間 アクトアップにおけるエイズ・アクティビズムの生成と衰退」、共著、平成23年3月、世界思想社、西井凉子編、『時間の人類学』(pp.88-114) 3. 終論「文化芸術都市・京都の未来」、共著、平成24年3月、京都市文化芸術企画課編、『京都市文化政策史講座報告書』(pp.226-230) 4. 『フィールドワーク2.0：現代世界をフィールドワーク』、単著、平成25年3月、風響社、京都文教大学文化人類学ブックレット 8(74p) <hr/> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会報告等：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「学部教育における人類学：フィールドワーク教育を中心とした「人類学的知」のカリキュラム」、単独、平成21年5月、日本文化人類学会第43回研究大会、大阪国際交流センター

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/6)

(学会報告、学会活動 つづき)

2. 「HIV感染対策研究における人文学の応用可能性」座長、平成21年11月、第23回日本エイズ学会 学術集会・サテライトシンポジウム、名古屋国際会議場
3. 「エイズ・アクティビズムの生成と衰退：アクトアップ・ニューヨークを事例として」(単独発表および共同座長)、平成22年11月、日本エイズ学会第23回学術集会サテライトシンポジウム「HIV感染対策研究における人文諸学の応用可能性 予防介入の人文的根拠を探る その2」、グランドプリンスホテル高輪 ザ・プリンス さくらタワー東京
4. 「宇宙空間での生は人類に何を教えるか」、単独、分科会「宇宙人類学の挑戦：『宇宙』というフロンティアにおける人類学の可能性」、平成25年5月、日本文化人類学会第47回研究大会、慶應義塾大学

学会活動：

平成24年 4月 「宇宙人類学研究会」(代表世話人：岡田浩樹 [神戸大学])日本文化人類学会課題研究懇談会・登録メンバー「現在に至る(平28.3まで)」

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演等：

1. 「地域のまちづくりに貢献するマンションとは」、単独、平成22年2月、京都市マンションフォーラム、ウイングス京都
2. 「バイタル伏見発足記念講演会 座談会企業が関わるまちづくり～地域の人びとが豊かに暮らすために企業が果たす役割とは？」パネルディスカッション司会、平成21年11月、京都文教大学
3. 「身体から考える」、単独、平成22年4月、京都大学人文科学研究所創設50周年記念シンポジウム『人類学の誘惑 京都からの回顧と発信』、京大会館
4. 研究会発表『『心のケア』は誰の仕事か：HIVカウンセリングの成立と展開をめぐる』、単独、平成22年7月、『トラウマ経験の組織化をめぐる領域横断的研究』、京都大学人文科学研究所
5. 「エイズへのさまざまなアプローチ」、単独、平成22年9月、(財)大学コンソーシアム京都「エイズと社会～ウイルスのネットワークvs. 予防とケアのネットワーク」、キャンパスプラザ京都
6. 「エイズへの様々なアプローチ」、単独、平成23年9月、大学コンソーシアム京都 京カレッジ「エイズ 社会を映す鏡 AIDS Reflecting Social Diversities」、キャンパスプラザ京都
7. 基調講演「AIDS文化フォーラム in 京都」、単独、平成23年10月、AIDS文化フォーラムin京都運営委員会主催、龍谷大学
8. 「アートと資本制」、共同、平成24年12月、共同講演者：イルコモンズ/小田マサノリ氏、アートNPOリンク主催・アサヒビール株式会社協賛、「表現の糧学校 ～思考のヒフ感覚～」第五講、アサヒ・アートスクエア(東京)

エッセイ：

1. 「社会の容れものとしてのすまい：地域のまちづくりに貢献できる集合住宅とは」、単独、平成22年10月、京都府建築士会誌『京都だより』10月号(pp.5-8)

その他：

1. 展覧会「LIFE with ART 受けとめ、そして、渡す人」展示物作成、竹田恵子・泊博雅・ウム・ランシンと共同制作、平成22年9月・10月、京都精華大学ギャラリーフロール
2. シンポジウム「ともに生きる地域づくり 現場から多文化社会を考える」総合司会、京都文教大学人間学部文化人類学科教育GP「文化コーディネーター養成プログラム」関連シンポジウム、平成22年12月、キャンパスプラザ京都
3. ワークショップ・ファシリテーション「京都文化芸術都市創生計画改定に関するワークショップ：れっつとーくあばうとあーと」、共同、平成23年11月、京都市主催、京都工芸繊維大学・京町家連携キャンパス
4. 分科会C「若者世代のつながり方～災害ボランティアから見えたもの～」(コーディネーター)、平成23年12月、単独、ユースシンポジウム「若者の行方～これからの生き方を考える～」、京都市・京都市ユースサービス協会主催、京都市中京青少年活動センター

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/6)

平成二十一～二十五(2009～2013)年度の主な研究成果等	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>5. 「Dumb Type: agency of art」司会・コーディネート、平成25年8月、HAPS(東山アーティスト・プレイスメント・サービス)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年 2月 自然エネルギーおよび森林資源の利用に関する調査(於:高知県高岡郡檮原町)</p> <p>平成22年 3月 地域福祉および自然エネルギー・環境運動に関する調査(於:デンマーク)</p> <p>平成22年 6月 地域社会でとりくむ環境運動に関する調査(於:高知県高岡郡檮原町)</p> <p>平成22年11月 地域社会でとりくむ環境運動に関する調査(於:京都市)</p> <p>平成23年 7月 地域社会でとりくむ環境運動に関する調査(於:高知県高岡郡檮原町)</p> <p>平成24年12月 宇宙飛行士の経験に関する人類学的研究、於:宇宙航空開発機構(JAXA)筑波宇宙センター</p> <p>平成25年 7月- せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成20年度-平成22年度 科学研究費補助金(基盤研究B・一般)『「普通の人々の哲学」と「知識人の思想」の葛藤をめぐる戦後思想史 鶴見和子文庫を開く』(課題番号20320019, 研究代表者:京都文教大学・人間学部・准教授 鶴飼正樹)研究分担者</p> <p>平成24年12月・平成25年3月 宇宙人類学研究会(日本文化人類学会課題研究懇談会)</p> <p>平成25年度-(2年間) 科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「宇宙開発に関する文化人類学的アプローチの検討」(研究課題番号:90299058、研究代表者:神戸大学大学院・国際文化研究科・教授 岡田浩樹)研究分担者</p>
<p>(学内活動)</p> <p>平成19年 4月 人間学研究所所員「平22.3まで」</p> <p>平成21年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平23.3まで」 教務委員会委員「平23.3まで」 学生相談室運営委員会委員「平23.3まで」</p> <p>平成22年 4月 地域連携委員会委員「平23.3まで」 文化人類学科運営委員「平25.3まで」</p> <p>平成23年 4月 修学旅行プロジェクト委員「平25.3まで」 就職委員会委員「平25.3まで」</p> <p>平成24年 4月 共通教育委員会委員「平25.3まで」</p> <p>平成25年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「現在に至る」 広報誌編集委員会委員「平26.3まで」 教務委員会委員「現在に至る」 総合社会学部コース運営会議メンバー「現在に至る」 文化コーディネーター委員「現在に至る」</p>	
平成二十一～二十五(2009～2013)年度の社会における活動	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成17年 京都市住宅審議会委員「平22.3まで」</p> <p>平成23年 3月- 8月 京都市 文化芸術企画課 京都文化芸術都市創生審議会政策部会委員</p>
	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <p>平成20年 6月 特定非営利活動法人・関西エイズ対策協議会理事「平25.5まで」</p> <p>平成22年 4月 バイタル伏見理事「現在に至る」</p> <p>平成23年 8月- 9月 震災復興支援ボランティア活動(NPO法人「フー太郎の森基金」と京都文教大学の連携による) 於:福島県相馬市</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/6)

平成二十一
～二十五
(2009～2013)
年度の社会における活動

(NPO法人等の団体への参画 つづき)

- 平成23年 市民による実践的な活動団体「Social Kitchen Working Group 1 震災/原発」メンバーとして、主に以下の活動を行った。
 9月 企画運営「カレー支援の夜」、於：Social Kitchen
 11月 企画運営「POTLUCK KYOTO ~ごはんとアイディアのポットラック」、於：Social Kitchen
- 平成23年 5月 Social Kitchen Working Group震災/原発 メンバー「現在に至る」
 平成24年 1月-2月 企画運営「展覧会『京都市長選挙』」、於：Social Kitchen

(小中高との連携授業の講師)

- 平成23年10月 武士米を利用した商品開発についてのプレゼンテーション、於：京都府立京都すばる高等学校
 平成24年 6月 「国際文化との比較から見た日本文化の特異性：「脱原発」の問題から」、於：京都府立加悦谷高校
 平成24年 9月 「Fieldwork in Germany: 見ることから始めよう」、於：私立上宮高等学校

(その他)

- 平成20年 表現の専門家講座「月曜日の私塾」(ブブ・ド・ラ・マドレーヌ、山田創平とともに主催)「現在に至る」
 平成22年 9月 台所大学「勉強会：アートと社会運動の公共性」(picasom) 各月2回程度開催「現在に至る」
 平成24年度
 1. 表現の専門家講座「月曜日の私塾」(ブブ・ド・ラ・マドレーヌ、山田創平とともに主催)「平20より」
 2. 台所大学「勉強会：アートと社会運動の公共性」(picasom)
 「平22.9より(平成24年度は不定期参加)」
- 平成25年10月・11月 京都文教大学 総合社会学部開設記念事業 企画
 1. フォトジャーナリスト 広河隆一氏写真展「チェルノブイリと福島」、於：京都文教マイタウン向島
 2. フォトジャーナリスト 広河隆一氏講演会「原発事故と子どもたち 報道と保養キャンプの現場から考える」、於：京都文教大学